

目 指 す 学 校 像	「みんなキラキラ さわやか笑顔の大東小学校を目指して」夢と希望の溢れる学校 よさを見つけて伸ばす学校 家庭地域社会と共に歩む学校
-------------	--

重 点 目 標	1 G I G Aスクール構想の推進と個別最適な学びにつながる学習指導の充実 2 生徒指導体制と教育相談体制の充実とあいさつとコミュニケーション力の向上 3 コミュニティスクールとして地域と共に児童の健やかな成長と安全を見守るための方策の共有 4 誰もが働きやすく、一人ひとりが力を発揮することができる教職員集団の醸成
---------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達 成 度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度		次年度への課題と改善策
1	(現状) ○全国学力状況調査や市学習状況調査の結果が平均を下回っている状況である。 ○3年間にわたる「主体的・対話的で深い学び」「ICT 教育等」の研究の発表の年となり、教職員や児童は ICT 活用について意欲的である。 ＜課題＞ ○全国学力・学習状況調査の国語で自分の考えを主張する問題や算数の割合の問題では無回答の児童が多くみられた。自分の考えを表現することに苦手意識が見られる。 ○学びの個別最適化に向け、ICT 等を活用しながら固定観念に縛られない、新しい発想の授業改善に取り組む必要がある。	・思考・表現の向上に受けた算数科の授業改善	○全国学力・学習状況調査の最新の結果を基に、市教委による学力向上カウンセリングを受けることで、より効果的な手立てを設定し、学校全体で児童の学力向上を図る。 ○研修を通して、児童が思考する時間を十分に確保し、友達と自分の考えを伝えたり、議論したりする機会を確保する。	○調査結果の分析結果や学力向上カウンセリングを踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定することができたか。 ○学校評価の「算数の学習内容を理解している」の項目で90%以上にする。	○全国学力・学習状況調査の最新の結果を基に、7月に市教委による学力向上カウンセリングを受けた。授業改善の視点や手立てを学年ごとに設定することができた。 ○指導主事からの指導助言を基に、児童が主体的に考え、友達と学び合う場を充実させるための、これまでになかった授業形式に挑戦することができた。	B	○「算数の学習内容を理解している」の項目が88%と目標は達成することができなかった。子どもたちが「わかった」「力がついた」を実感できるような授業改善を引き続き行っていく。	・授業を通して、一人一人のICTの技能が高まっていると感じる。グループの中で技能の教え合いが見られ相互に高め合っている。またICTを活用することで教員が児童の評価を迅速に行うことができています。 ・一方で、授業参観を見ると主体的にタブレットを活用しているように見えるが対話的に活動している場面が少ない。授業参観の際は、ICTを活用しながら友達とかかわっている様子が見られるとよい。
		・学びの個別最適化、探求化に向けたICTの効果的な活用と授業改善	○全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できるようにする。 ○国語や算数について、スタディサブリ、オクリンクやムーブノートを活用し一人ひとりのよさや課題に向き合っていくための授業改善を行う。	○児童がスタディサブリを授業や家庭学習で活用できるようになったか。 ○オクリンクやムーブノートを活用し、一人ひとりのよさや課題に向き合うための授業改善を行うことができたか。 ○児童が自己採点の結果を基に、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか。	○「ICT 教育等」の研修をもとに、エバンジェリストが中心となり、オクリンク・ムーブノート・スタディサブリ・forms・classnotebook・プロジェクトについて教職員一人一人が技能を高めながら授業改善を進めることができた。 ○全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点し、児童が自らの学習状況を把握することができた。	A	○3年間の「ICT 教育等」の研究が終わり、教職員のICT活用に対する意識も技能も高まった。次年度以降はICT活用が特別なことではなく、授業には当たり前にあるツールとして、教科横断的で探究的な授業実践にどのように活用していくかを検討していく。	
2	(現状) ○学校評価の「相談や要望に対して適切に対応している」について、保護者からの回答が82%だった。 ○学校運営協議会において、学校地域保護者共通のテーマとして「あいさつ」と「コミュニケーション」の必要性が求められた。 (課題) ○子どもたちの悩みや家庭の状況が多様化しており、一人ひとりの状況を的確に把握し、個に応じた組織的な対応を行うための組織づくりが課題である。 ○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門職に相談できることがまだまだ保護者に認知されていない現状がある。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実	○いじめの早期対応と早期解決に向け、教職員研修等を通してのいじめの認知について共通理解する。 ○心と生活のアンケート、積極的な保護者面談等から得られた情報を基にケース会議等を開き、迅速かつ組織的に対応する。 ○スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の相談につなげるよう保護者への積極的に周知する。	○学校評価で「相談や要望に対して適切に対応している」を保護者からの回答を85%以上とする。 ○組織的かつ迅速な対応が必要な場合には、生徒指導主任を中心にその都度ケース会議を開催し、具体的手立て等を共有することができたか。 ○学校だより等を通して、担任や管理職、専門職との教育相談がいつでもできることを発信することができたか。	○いじめの認知に対して共通理解し、迅速かつ誠実に対応するための教職員研修を定期的に実施することができた。 ○いじめや不登校、緊急度に関わるケースなど、生徒指導主任や教育相談主任を中心に積極的にケース会議を開き、具体的な対応策を検討することができた。 ○「相談や要望に対して適切に対応している」について85%の保護者からよい評価を受けた。	B	○いじめの認知に対しては保護者や地域の皆様に広く理解していただく必要があり、学校のみならず家庭や地域とともにいじめに対応していく必要がある。 ○教職員による配慮のない言動で、児童の心が傷ついてしまったという訴えが昨年度に引き続き今年度もあった。教職員研修を定期的に開き、児童が安心して登校できるように努めていく。	・教職員による配慮のない言動について子どもたちからも聞くことがある。学校運営協議会委員やPTAの役員となり、保護者から誰に相談すればよいかと相談されることがあった。保護者としては管理職に相談しづらいところがあるため、より相談しやすい環境を作してほしい。
		・小・中連携や地域や家庭と連携したあいさつの意識の向上に向けた取組	○児童会を主体とした校内や小中連携でのあいさつ運動を実施する。 ○学校だよりやPTAだよりを通して家庭と学校とのあいさつ充実に向けた発信を行う。	○中学校、家庭、保護者と連携して、あいさつの充実を図るための取組を行うことができたか。 ○学校評価の「気持ちのよいあいさつをしている。」の項目について80%以上にする。	○中学校の生徒会と連携したあいさつ運動、PTAが中心に進めた「あいさつのあるあいさつ運動～あいさつで心をなごう」と充実した取組を行うことができた。 ○学校だよりで地域のあいさつパッチについて発信することができた。	B	○学校評価における「あいさつ」の評価が77%と目標に達することができなかったことから、その要因を明確にし上で、あいさつを充実するための方策を検討していく。	
3	(現状) ○昨年度、学校運営協議会準備会を立ち上げ、学校運営方針や指導の重点について地域と保護者と共有し、熟議を行い「あいさつ」「コミュニケーション」の重要性を共有した。 ○ここ2年、学校と家庭、地域が連携して行う「大東っ子まつり」が中止となっていたが、今年度再開予定となっている。 (課題) ○新型コロナウイルスの影響で、この数年多くの行事が中止や縮小となったことで、学校と地域の連携が疎遠になってきている。 ○スクールサポートネットワーク会議や民生委員連絡会が、この数年、中止や紙面開催となっていたことで、児童の安全性について情報共有する機会がなくなっている。	・学校運営協議会を通した学校・地域・家庭の連携の強化	○今年度から始まる学校運営協議会において、コミュニティスクールの重要性を適切に伝えらるとともに、学校・地域・家庭が「あいさつ・コミュニケーション」を向上するための具体的な手立てについて熟議を深める。 ○スクールサポートネットワーク会議や民生委員連絡会を数年ぶりに開催し、地域や保護者からの情報を基の児童の安全性を高める。	○熟議で決定した取組について計画的に実施することができたか。 ○スクールサポートネットワーク会議や民生委員連絡会を開催し、適切な情報を共有し、具体的な支援について検討することができたか。	○3回の学校運営協議会を実施し、どの回でも白熱した熟議がなされ、「あいさつ」が充実するための学校・地域・家庭の連携や学校運営協議会がさらに充実するための方策等を検討することができた。 ○3年ぶりとなる「大東っ子まつり」を実施し、学校・PTA・育成会が連絡会等を通じて議論を重ねて実施し、子どもたちの94%が楽しかったと回答した。	B	○今年度の熟議を基に、学校運営協議会の充実に向け、委員の構成や教職員の参加、熟議の内容について検討していく。 ○新型コロナウイルスの状況が改善されなかったことから、今年度においてもスクールサポートネットワーク会議や民生委員連絡会の実施ができなかった。来年度は顔を合わせ、情報を共有していく。	・youtubeによるライブ配信はコロナ禍で保護者が参観できない状況の中では子どもたちの様子を見ることができてよかった。 ・卒業式や来年度の運動会など、できるだけ、実際に子どもたちの活動を見られるようにしてほしい。 ・学校運営協議会が始まり、無理に新たな取組をするのではなく、子どもたちのために学校が提案したことについて、委員皆でよい議論ができるよう進めてくれた。
		・ICT等を活用した目指す児童像を共有するための多様な発信	○運動会における保護者限定の youtube 配信を行い、児童の様子が伝わるようにする。 ○発行物や動画を閲覧するために新たにホームページに保護者限定ページを開設する。	○新たな保護者限定ページの開設により、学校の情報が保護者に伝えることができたか。 ○学校評価の「学校の教育活動を積極的に公開している」について85%以上にする。	○新たに運動会や校内音楽会の youtube 配信を行うことができた。 ○新たに保護者限定ページを開設し、学校だよりや学年だより等のデジタル配信等で活用した。	B	○「学校の教育活動を積極的に公開している」については82%と目標に到達することができなかった。学校公開や授業参観も含め、教育活動の公開について検討していく。	
4	○「ICT教育等」の研究校として、エバンジェリストを中心に、ICTに関する知識と技能を高め、効果的に授業で活用していくための教職員研修を意欲的に行ってきた。 ○教職員研修で得た知識をもとに、学校行事や業務改善に活用するための職員からのアイデアを取り上げ実践してきた。 ＜課題＞ ○算数を中心に研修を進めてきたが、そこで培った指導方法等について、他教科でも実践につなげていくことが課題である。 ○初めて教職につく教員や経験が浅い教員が自信をもって子どもたちと向き合っていくための支援体制の構築が課題である。	○ICTを活用しながら一人ひとりが働きやすい職場環境の構築	○エバンジェリストを中心にICT活用研修を実施し、それを基にした教職員からのアイデアを収集し、授業改善や業務改善に積極的に取り入れる。 ○学校だより等の定期配付物をデジタル配信としペーパーレス化する。	○学校評価にかかわる業務改善にかかわる項目について80%以上とする。 ○学校だより等をこれまでの紙での配付からスムーズにデジタル配信に移行し業務改善につなげることができたか。	○学校だより等のデジタル配信や会議や研修の校務用PCの活用によるペーパーレス化、個人面談のbookingを活用した予約システムの導入等、ICTによる業務改善を進めることができた。 ○時間外在校時間を昨年度の11月までの同時期比較で平均11時間削減することができた。	A	○bookingの活用や研究発表会の簡略化された運営など他校にも影響を与えられる業務改善を行うことができた。時間外在校時間のみならず教職員の健康状況や満足度等も踏まえた働き方改革の評価基準を検討していく。	・ICT等の様々な取組が求められている中で、教職員や管理職の勤務時間は増えているのではないかと。 ・担任からの連絡やお願いの意図を明確に保護者につたえることで、保護者の協力体制もより充実するのではないかと。
		・意欲に満ちた教職員集団を醸成する学校課題研修の実施	○3年間にわたる研修の発表年として、研究発表会に向けた授業検討を、研修主任を中心に、市教育と連携しながら行っていく。 ○管理職の授業参観を1人年間6時間実施する。	○研修主任を中心に充実した研修を実施し、研究発表を成功させることができたか。 ○すべての教員が6回の管理職授業参観を実施し、学校評価で「基礎基本を大切にした創意工夫をしたわかりやすい授業を行っている」を80%以上にする。	○11月22日に研究発表会を開催し、授業や業務改善のためのICT活用、主体的に対話的に児童が活動するための授業改善について公開することができた。 ○すべての教員が年間6回の管理職授業参観を実施し、「基礎基本を大切にした創意工夫をしたわかりやすい授業」の92%を達成できた。	B	○3年間の「主体的・対話的で深い学び」「ICT教育等」の研究が終了し、この実績をベースに新たに「学びの自律化と個別最適化そして探究化についての研究」をテーマに授業改善に努めていく。	